

苑と池

— 嶋をめぐる用語から —

古代では庭園を示す語に嶋（志満）があり、関連して苑、園（園）、池がある。嶋は岸俊男説では、広く園池を備えた施設の意味である。他方は許慎撰『説文』に苑が「禽獸を養ふ所以なり」、園が「樹果ある所以なり」とある。園は果樹園、菜園など農園の意味。苑は禽獸（鳥獸）を飼う所となろう。苑に垣など区画があるものを園（園）といい、中国古代では苑と園を合わせた苑園、苑園は皇帝の苑（皇家園林）を意味した。これは大小の池沼、苑、宮殿楼観に狩獵場、果樹・菓草園など諸施設を備えた広大なもので、唐長安城には西内苑、東内苑、禁苑の三苑がある。古代都城制の課題の一に、中国皇家園林とわが苑との関係がある。

続日本紀では苑を宮廷の嶋の意味に用いる。実際、平城宮では苑は園池に宮殿・楼閣などを備えた複合施設であり、池（宮）と対語である。すなわち、平城宮には松林苑、南苑、西池宮、西南池亭、楊梅宮南池など二苑一池宮一池亭がある。松林苑、南苑はともに奈良前半期に特徴的で、後苑の松林苑は宮北にあり、南苑は東院地区に充てる説がある。西池宮は現佐紀池周辺に、西南池亭は西南隅の園池跡に比定できる。

このうち松林苑、南苑、西池宮は構造が概略判明し、園池周囲に宮殿・楼閣など諸施設が広がる。例えば松林苑には松林宮があり、宮廷最大の水上池が主要な園池である。東院には復元なった園池がある。南苑即東院なら、南苑は奈良後半期に楊梅宮となり、園池は両時期を通じてある。このように、苑が園池を備えること、苑とは別に池宮があることが知られる。苑と池宮の違いは何か。数十haにおよぶ松林苑を別とすると、南苑と他の池宮は推定で260m（900尺）四方か、やや超える規模でさほど差はない。苑史料には園（農園）がみえるから、両者の違いは付属施設の違いであろうか。

解明が進む飛鳥の園池遺構が百済・新羅の影響下にあることは通説化している。半島の歴史を伝える三国史記には「池を穿ち山を造る」などの表現が散見し、平城宮東院に関わる「楊梅宮南池」は百済王宮の南池、「穿池於宮南」（634・武王37年条）との類似性を窺わせるが、三国史記には苑の語句はみえない。

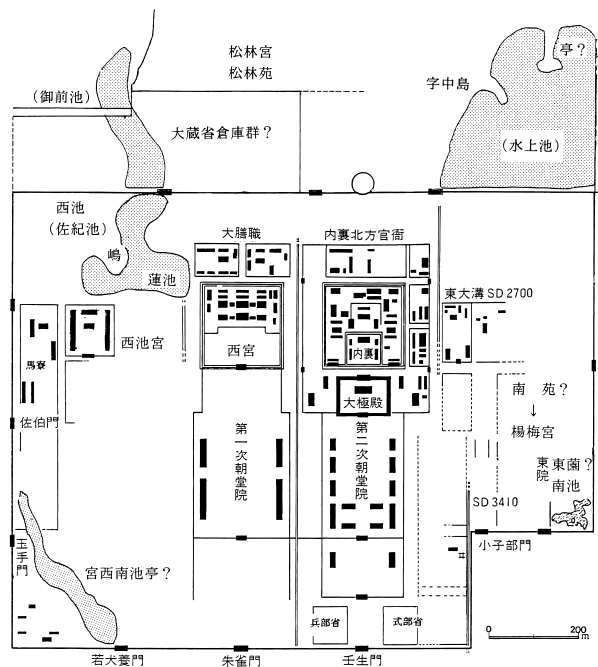


図36 平城宮の苑と池宮

わが苑の確実な初見は天武紀14年（685）11月条「白錦後苑」、持統紀5年（691）3月条「御苑」であろう。そして、飛鳥の出水酒船石遺跡がこれにあたる可能性が高い。しかし、半島の影響が濃厚なこの施設を「白錦池」と記さないのは何故か。苑と池の関わりが明確なのは唐の史料である。唐太宗の武徳9年（626）9月条（旧唐書卷2）には、苑と池が対語でみえるし、唐長安城の東内（大明宮）には東西の苑の他に太液池、龍首池がある。嶋をめぐる用語は、当時の日本と朝鮮と唐の国際関係を映しているのではないか。（金子裕之）

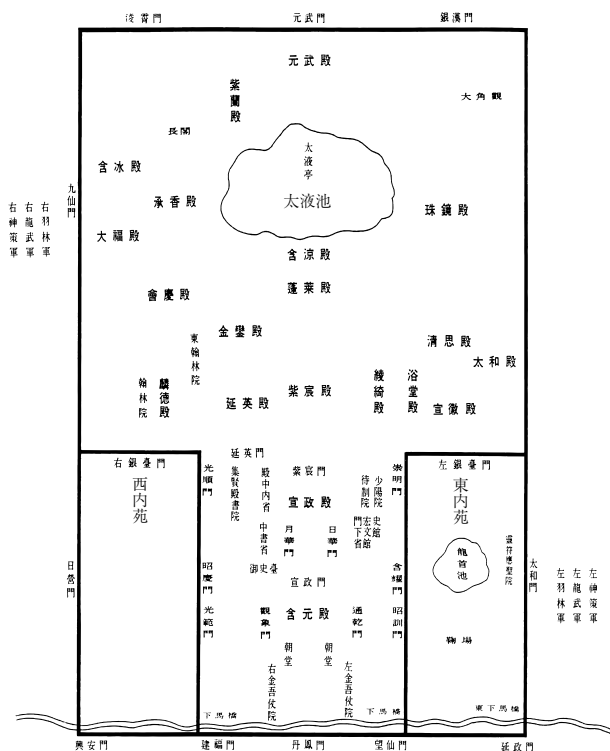


図37 唐大明宮の東西苑と太液池「大明宮園」（平岡武夫1956『唐代研究のしおり第7 唐代の長安と洛陽 地図篇』）